# インディアナ日本語学校便り

第36号

令和６年３月2日事務所 317－255－1631 メール ijls@indiana-j-school,net

(HP) http://www.indiana-j-school.net　　校 長　森 勝義

## 「鑑賞：干渉：感傷」

### ～クロッカス黄色い花でもクロッカス～

校長　森　勝義

駐車場横、木々の中に黄色いクロッカスが健気に咲いていました。横には白、紫色の花も咲いていました。もうインディの春はそこまで来ています。

この時期、教員間でよく使われる言葉に「１月は行く、２月は逃げる、３月は去る」という言葉があります。まさしくまさに３月に突入し、卒業シーズンを迎えました。

「鑑賞」

子を想う親にとって、我が子が生まれてからよちよち歩き、そして話をし始める幼稚園、小学校低学年時代はかわいくて愛おしくて我が子をずっと「鑑賞」し、

「干渉」

自立する心が芽生え始めた小学校高学年から中学・高校時代までは、なにかといろいろなことに「干渉」し、

「感傷」

家族よりも友といる時間が多くなる年頃や、ひとり立ちして、仕事を持って結婚までしたら「感傷」に浸る。

保護者の皆様、お子様はひとりの時間を好むようになり、ご家庭でもやり場のないストレスを抱え、急に無口になったり、時には饒舌になったりと、日々態度が変化していたと思います。

お子様の成長を温かく見守り、愛情溢れるお弁当を作り続けた〇年間、保護者の皆様もきっとお子様から「愛情弁当卒業証書」を３月１６日に受け取る方もいらっしゃることと思います。

子どもたちにとって、インディアナで過ごしてきた時間はなにものにも変えがたい財産となり、現地校でつらかった学習や、培った努力することの大切さ、友との固い絆は、終生消えることはなく、心の中で生き続けることと思います。

４月からはそれぞれの新天地で友を見つけ、夢を追い続け、大人への階段を一歩一歩確実に上がっていくことでしょう。その過程でお子様がつまずいて転んだり、休みたくなったり、誰かに背中を押してもらいたくなったりすることがあるでしょう。その時は、そっと手を差し伸べて起こしてあげ、闇夜の道を照らし、背中を押してあげてください。

小学部や中学、高校の後輩たちは立ち上がって進んで行く先輩たちの背中を追い続けて４月からの日本語学校で過ごしていくと思います。

土曜日になると子どもたちは笑顔で登校してきます。月曜から金曜まで人に言えないほどの苦労やストレスに耐えていることなど、微塵も見せない子どもたち、そんな子どもたちを私は誇りに思います。

保護者の皆様、とりわけ卒業を控えているお子様をお持ちの保護者の方々、

今はどの「カンショウ」が皆様の心の中に思い浮かばれているのでしょうか。

「鑑賞」　　「干渉」　　「感傷」

「第二回ネコシリーズコンテスト」

２月２４日、正面玄関受付横で「第二回ネコシリーズコンテスト」を実施しました。園児から小学生、中学生、高校生、保護者の方々にも投票していただきました。全投票数２５０票でした。かわいい猫の写真だけではなく、下の四字熟語もしっかり読んでくれました。

第１位「無理無体」

第２位「一方通行」

第３位「自問自答」

駐車場横の木々の中に黄色いクロッカス

## ヒゲ森の言葉の森・探検

# 同床異夢

どうしょう　いむ

行動をともにしながら、それぞれの考え方や目標が異なること。同じ寝床にいても、見る夢は異なる意から。

**英雄とはふつうの人より五分だけ長く勇敢でいられる人のことだ。**

ラルフ・エマーソン

１８０３年～１８８２年　アメリカの思想家・小説家